ICGN ジャパンカンファレンス 2026

主催：日本取引所グループ (JPX)／東京証券取引所 (TSE)

開催日：2026 年 12 月 16 日（水）

会場：東京都中央区日本橋兜町 2-1（〒103-8224）

2026 年 12 月 16 日（水）プログラム

09:00 – 09:30 **受付**

09:30 – 09:35 **ICGN CEO による開会挨拶**

登壇者：Jen Sisson（ジェン・シソン）氏／ICGN CEO（英国）

09:35 – 09:45 **主催者挨拶 (JPX)**

登壇者：横山 隆介 氏／JPX 代表執行役 Group COO／東京証券取引所 代表取締役社長（日本）

09:45 – 09:55 **金融庁による基調講演**

登壇者：井上 俊剛 氏／金融庁企画市場局長（日本）

09:55 – 10:25 **世界各国・地域の動向：コーポレートガバナンスおよびスチュワードシップに関する政策・規制の最新動向**

内容：ICGN のグローバル政策ディレクターである Peter van Veen 氏が、世界各国・地域におけるコーポレートガバナンスおよびスチュワードシップ規制の主な進展と動向を概説します。これまでの重要な変化を振り返るとともに、2026 年以降に注目すべきポイントを解説します。

登壇者：Peter van Veen (ピーター・ヴァン・ヴェーン) 氏／ICGN グローバル政策ディレクター（英国）

10:25 – 10:55 専門家による解説：三井住友信託銀行によるコーポレートガバナンス調査の結果

登壇者：茂木 美樹 氏／三井住友信託銀行 エグゼクティブマネージャー（日本）

10:55 – 11:25 休憩

11:25 – 12:15 **全体会議 1：資本効率、ガバナンス、企業価値 ― 日本のコーポレートガバナンス改革の次なる段階**

内容：改訂された日本のコーポレートガバナンス・コードでは、資本効率の改善とガバナンスのベストプラクティスの強化が重要な柱となっています。本セッションでは、こうした改革が取締役会の運営、資本配分、企業の市場競争力にどのような変化をもたらしているかを検証します。また、改革の次なる段階が投資家や企業にとってどのような意味を持ち、中長期的な企業価値の向上にどうつながるのかを議論します。

パネリスト：

- **廣島 直樹 氏**／有限責任 あずさ監査法人 アドバイザリー統轄事業部 ディレクター（日本）
- **白鳥 琢也 氏**／三井住友信託銀行 ガバナンスコンサルティング部 IR・SR 第 1 チーム長（日本）
- **Chris Vilburn（クリス・ヴィルバーン）氏**／ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント マネージング・ディレクター兼アジア太平洋地域スチュワードシップ責任者（日本）

モデレーター： 内田 陽祐 氏／野村アセットマネジメント 責任投資部 部長（日本）

12:15 – 12:45 **資本効率とコーポレートガバナンス：投資家の視点**

内容：資本効率の向上は、日本のコーポレートガバナンス改革における主要テーマの一つとなっています。取締役会には、資本配分の規律を高め、長期的な企業価値の創出に取り組むことが、これまで以上に期待されています。

本対談では、ICGN CEO のジェン・シソン氏が、ティー・ロウ・プライスで日本株式戦略およびインターナショナル小型株式戦略の日本株式部分を担当するポートフォリオ・マネージャー、渡辺博史氏を迎え、企業や取締役会に対する投資家の期待がどのように変化しているかについて議論します。

渡辺氏は、日本株式への豊富な投資経験を踏まえ、企業が資本配分を改善するために必要な取組、投資家が重視するポイント、そしてこれらの動向が日本のガバナンス改革の次なる段階にどのような影響を及ぼしているかについて見解を述べます。

登壇者：

- **Jen Sisson（ジェン・シソン）**氏／ICGN CEO（英国）

- **渡辺 博史 氏**／ティー・ロウ・プライス バイスプレジデント（日本）

12:45 – 13:45 昼食

13:45 – 14:30 特別対談：Name TBC) / Georgeson 主催

内容：過去 10 年間、アジアの資本市場は、ガバナンス基準の変化、投資家による企業への関与の拡大、取締役会や企業に対する期待の高まりを背景に、大きく変化してきました。

本対談では、日本の有力投資家が、こうした変化がアジア各国・地域における投資判断、企業とのエンゲージメント、資本配分にどのような影響を与えてきたかを振り返ります。

さらに、今後 10 年間に投資家にとって特に重要となるガバナンスの動向や、アジアの企業および市場に対して投資家が何を期待するのかについて議論します。

モデレーター： Cas Sydorowitz (キャス・シドロウィッツ) 氏／Georgeson CEO（英国）

-Name TBC

14:30 – 15:15 **全体会議 2：対話の架け橋を築く ― 日本における企業と投資家のコミュニケーション強化**

内容：企業と投資家の実効的な対話は、信頼関係の構築、説明責任の向上、そして長期的な企業価値の創出に不可欠です。

本セッションでは、情報開示の透明性向上から、ガバナンスや資本政策を巡る戦略的な対話に至るまで、日本における企業と投資家のエンゲージメントがどのように進化しているかを探ります。

パネリストは、企業と投資家の双方が、相互理解を深め、持続可能な企業成長を実現するために、どのようにコミュニケーションを強化できるかについて知見を共有します。

パネリスト：

- **Kim Farrant（キム・ファラント）氏**／HESTA 責任投資部門ゼネラルマネージャー（オーストラリア）
- **Arthur Mitchell（アーサー・ミッチェル）氏**／White & Case LLP シニアアドバイザー、独立社外取締役（日本）
- **Ali Saribas（アリ・サリバス）氏**／SquareWell Partners パートナー（英国）

モデレーター：福田 愛奈 氏／リーガル・アンド・ジェネラル・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社 インベストメント・スチュワードシップ部長（日本）

15:15 – 16:00 **全体会議 3：改革・成果・リターン ― 株主アクティビズムの中心にあるガバナンス**

内容：日本では株主アクティビズムが活発化しており、多くの投資家が企業価値向上戦略の中心にガバナンス改革を据えています。

本セッションでは、ガバナンス改革を重視する株主アクティビズムが、企業の経営上の優先課題や取締役会の構成にどのような影響を与え、説明責任の強化につながっているかを考察します。

また、企業がこうした動きに建設的に対応するための方策や、投資家と取締役会が協働して、持続可能な企業価値の創出につながる長期的かつ実効性のある変革を推進する方法について議論します。

パネリスト：

- **宮地 真紀子 氏**／ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社／Boardroom Review Japan ディレクター（日本）
- **水落 一隆 氏**／ライジング・サン・マネジメント 代表取締役社長、ヘリオス テクノ ホールディング株式会社 取締役（日本）
- **中島 好美 氏**／一般社団法人 日本取締役協会（JACD）独立取締役委員会副委員長、積水ハウス、アルバック（ULVAC）、東京海上日動火災保険の独立社外取締役（日本）

モデレーター：Marianne Harper-Gow (マリアン・ハーパーガウ) 氏／Baillie Gifford ガバナンス・サステナビリティ担当ディレクター（シンガポール）

16:00 – 16:30 休憩

16:30 – 17:15 **全体会議 4：サステナビリティ報告と保証 ― 現状と今後の展望**

内容：サステナビリティ報告は、自主的な開示の枠組みから、規制に基づく義務的な開示へと急速に移行しています。国際的な比較可能性や財務報告との関連性、投資家の意思決定における有用性がますます重視されるとともに、保証に対する期待も高まっています。

本セッションでは、基準策定、規制の導入・適用、早期適用に関する最新の国際動向を概観した上で、日本におけるサステナビリティ開示制度の進展、市場の対応状況、保証制度の今後の方向性について掘り下げて議論します。

パネリスト：

- **甲斐 幸子 氏**／国際監査・保証基準審議会（IAASB）シニアアドバイザー（日本）
- **峯村 佳典 氏**／日本公認会計士協会（JICPA）サステナビリティ開示・保証担当テクニカルディレクター（日本）
- **Katie Schmitz（ケイティ・シュミッツ）氏**／IFRS 財団（ISSB）グローバル投資家向けアウトリーチ担当ディレクター（米国）

モデレーター：榎本雄一朗 氏／金融庁 IFIAR 戦略企画室長（日本）

17:15 – 18:00 **全体会議 5：2026 年の株主総会シーズンを振り返り、2027 年を展望する ― 注目すべき動向と課題**

内容：2026 年の日本の株主総会シーズンは、ガバナンス改革の進展や投資家の期待の高まりを背景に、日本のコーポレートガバナンスがどのように変化しているかを知る上で、多くの示唆が得られます。

本セッションでは、2026 年の株主総会シーズンにおける主なテーマや成果を振り返り、企業と投資家の双方にとっての教訓を整理します。

さらに、2027 年の株主総会シーズンを見据え、特に注目すべき動向や課題について、各パネリストがそれぞれの見解を述べます。

パネリスト：

- **井川 智洋 氏**／フィデリティ・インターナショナル エンゲージメント責任者兼ポートフォリオ・マネージャー（日本）
- **Peter Reali (ピーター・リアリ) 氏**／Broadridge 機関投資家ガバナンス担当ゼネラルマネージャー（米国）
- **脇山 卓也 氏**／三菱 UFJ 信託銀行 ジュニアフェロー（日本）

モデレーター： 八幡 志塚 氏／日本シェアホルダーサービス 経営企画部次長（日本）

18:00 – 18:10 閉会挨拶